

薬には病気を治したり、<sup>しょうじょう</sup>症状をやわらげたりする効果がある一方、副作用があらわれることがあります。医師に指示された用法・用量にしたがって使用してください。体調が良くなったと自分で判断し、使用することをやめたり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。薬のことでわからないこと、心配なことなどがありましたら、医師や<sup>やくざいし</sup>薬剤師に相談してください。

### エビリファイ OD錠 3mg、6mg、12mg、24mg

一般名： アリピプラゾール (Aripiprazole)	販売名	エビリファイ OD錠 3mg	エビリファイ OD錠 6mg	エビリファイ OD錠 12mg
	形状			

※エビリファイ OD錠 24mgの写真は省略しています

## 1.どんな薬

- この薬は、脳内の神経伝達物質であるドパミンなどの受容体に作用し、<sup>げんかく</sup>幻覚・<sup>もうそう</sup>妄想などの<sup>しょうじょう</sup>症状を抑え、不安定な精神状態を安定させるとともに、やる気がしない、何も興味が持てないといったような状態を改善させます。また、<sup>おさ</sup>抑えることのできない感情の高まりや行動などの<sup>しょうじょう</sup>症状を改善します。[抗<sup>こうせいしんびょうやく</sup>精神病薬]
- <sup>とうごうしつちょうじょう</sup>統合失調症、<sup>そうきょくせいしょうがい</sup>双極性障害における<sup>そうしょうじょう</sup>躁症状の改善、うつ病・うつ状態（既存治療で十分な効果が認められない場合に限る）、小児期の自閉スペクトラム症に伴う<sup>しょう</sup>易刺激性の<sup>ちりょう</sup>治療に用いられます。

## 2.この薬を使用できない人、特に注意して使用する必要がある人

- ⊗ 次の人はこの薬を使用できません。必ず医師や<sup>やくざいし</sup>薬剤師に相談してください。
  - ・<sup>こんすい</sup>昏睡状態の人
  - ・<sup>ゆうどうたい</sup>バルビツール酸<sup>ますいざい</sup>誘導体や<sup>ちゅうすうしんけいよくせいざい</sup>麻酔剤などの<sup>ちゅうすうしんけいよくせいざい</sup>中枢神経抑制剤が強く効いている人
  - ・アドレナリンを使用している人（アナフィラキシーの<sup>ちりょう</sup>救急治療、または<sup>ますい</sup>歯科領域での<sup>ますい</sup>麻酔に使う場合を除く）
  - ・過去にエビリファイに含まれる成分で<sup>かびんしょう</sup>過敏症のあった人
- 次の人は特に注意が必要です。使い始める前に医師や<sup>やくざいし</sup>薬剤師に相談してください。
 

〈この薬を使用されるすべての方に共通〉

  - ・<sup>しん臓</sup>心臓や<sup>けっ管</sup>血管の病気の人、<sup>てんかん</sup>低血圧の人またはそれらが疑われる人
  - ・てんかんなどのけいれんを起こす病気を有する人、過去にてんかんなどのけいれんを起こしたことがある人
  - ・<sup>とうにょうびょう</sup>糖尿病の人、過去に<sup>とうにょうびょう</sup>糖尿病になったことがある人、<sup>けつえん</sup>血縁に<sup>とうにょうびょう</sup>糖尿病の人がいる人、<sup>こうけつとう</sup>高血糖の人、<sup>ひんまん</sup>肥満の人など<sup>とうにょうびょう</sup>糖尿病になりやすい人
  - ・長時間動かないでじっとしている人、<sup>びょうしょう</sup>長期間<sup>びょうしょう</sup>病床にある人、<sup>ひんまん</sup>肥満の人、<sup>だっすい</sup>脱水状態の人
  - ・死にたいと強く思ったり考えたりしたことがある人
  - ・<sup>かんぞう</sup>肝臓に障害がある人
  - ・<sup>にんが</sup>妊婦または<sup>にんしん</sup>妊娠している可能性がある人
  - ・授乳中の人
  - 〈うつ病・うつ状態（既存治療で十分な効果が認められない場合に限る）の場合〉
  - ・<sup>にんが</sup>脳に器質的な障害のある人
  - ・<sup>しやうどう</sup>衝動的な行動を起こしやすい病気を<sup>がっぺい</sup>合併している人
- この薬には一緒に使用してはいけない薬や、一緒に使用する場合に注意が必要な薬や飲み物があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師や<sup>やくざいし</sup>薬剤師に相談してください。

### 3. この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと

- この薬の使用により、以下のような **症状** があらわれることがあります。これらの **症状** に気づいたら、医師や **薬剤師** に相談してください。

主な <b>症状</b>	考えられる副作用など
吐き気、口から出る息が甘くてすっぱいにおいがする、深く大きい呼吸、意識がなくなる	糖尿病性 ケトアシドーシス、糖尿病性 昏睡
体が重くて動きたくない感じがする、体重が減る、のどがかわく、水を多く飲む、尿の量が増える、尿の回数が増える	高血糖
お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、ぼんやりしてまわりのことがよく分からなくなる	低血糖
社会的に困ったことになるにもかかわらずギャンブルを繰り返す、いつもより異常に性的な気持ちや興味が強くなる、計画せずに必要以上に何度も買い物をしてしまう、いつもより異常に食べたくなる	衝動 制御 障害
体重が増える、体重が減る	体重の変動

〈この薬を使用されるすべての方に共通〉

- **自動車運転等**：眠気 や注意力・集中力・反射運動能力などが低下することがあります。自動車の運転など、危険を伴う機械の操作は行わないでください。
- 他の **抗精神病薬** を使用していて、この薬を飲み始めた場合などには、月経が再開する、月経量が増える、貧血、子宮内膜症 があらわれることがあります。このような場合には、医師に相談してください。
- この薬の使用により、ものが飲み込みにくくなる場合があります。むせたり、咳き込んだり、ものが飲み込みにくいことがある場合は医師に相談してください。特に、もともと、ものが飲み込みにくい人や、口腔ケアが不十分な人などでは、飲食物、たんや唾液、胃液などが誤って気管に入ることによって、肺炎になる場合がありますので注意してください。

〈**統合失調症** の場合〉

- 興奮しやすい、敵意をもつ、誇大性（自分を過大評価する **妄想**）などの精神 **症状** の悪化が見られたら、医師や **薬剤師** に相談してください。今まで飲んでいた薬からこの薬に変えるとき、**症状** が悪化することがあります。

〈うつ病・うつ状態（既存治療で十分な効果が認められない場合に限る）の場合〉

- うつ病やうつ状態の人は死にたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど **症状** が悪くなることがあるので、このような **症状** があらわれた場合は、医師に相談してください。
- 不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした **刺激** で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっと座ってられない、などの **症状** があらわれることがあります。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの **症状** があらわれた人の中には、うつ **症状** などのもともとある病気の **症状** が悪化する場合や、死にたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。これらの **症状** があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした **刺激** で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ **症状** などのもともとある病気の **症状** が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、

ご家族の方にも伝えるようにしてください。

#### 4. ほかに知られている副作用

「3. この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと」に記載されている副作用のほか、比較的よくみられる副作用の一例は以下のとおりです。これら以外の副作用もあらわれることがあります。これらの症状や、普段と異なる症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

主な症状	考えられる副作用
足がムズムズしてじっとしてられない感じがする、じっと座ってられない	アカシジア
眠れない	不眠
手足のふるえ、首のふるえ	振戦

#### 5. 保管方法

直射日光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。吸湿性があるため、ブリスター（銀色のシート）包装から出さず、そのままの状態でも保管してください。子どもの手の届かないところに保管してください。

#### 6. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などについて不明な点がある場合は、医師や薬剤師におたずねください。

この製品に対する一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売業者：大塚製薬株式会社 (<https://www.otsuka.co.jp>)

電話：0120-922-833（医薬情報センター）、受付時間：9時～17時（土、日、祝日、休業日を除く）

※医薬品副作用被害救済制度：お薬は正しく使っても、副作用が起こることがあります。もしも副作用で重い健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付が受けられる公的な制度です。

制度の詳細はこちらをご覧ください。

[https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai\\_camp/index.html](https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html)

なお、抗がん剤、免疫抑制剤や抗ウイルス薬などにはこの制度の対象にならないものがあります。対象外となる医薬品はこちらから検索いただけます。

<https://www.pmda.go.jp/relief-services/adr-sufferers/0022.html>